ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

シートNO.

ボーリング名	B-3	調査位置				北　緯	36 ° 50 ’ 55.3900 ”
発注機関	栃木県　大田原土木事務所			調査期間	2010-09-03 ～ 2010-09-07	東　経	140 ° 11 ’ 49.6500 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	321.11 m	角度	180° 上 下 90° 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 0.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	8.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	319.61	1.50	1.50		表土 (SF)	黒 暗褐		硬い	有機質火山灰土である。GL-0.5mまでは非常に緩く、稀にφ5～10mmの角礫を混入し、層に幾分かの乱れを感じる。以深、含水・粘性共にやや上昇し、均質な土性を有す。		
2	316.76	2.85	4.35		礫混り砂質シルト (崩積土) (MS-G)	暗褐灰		非常に硬い	土は含水・粘性共に低位でやや硬い。 全体に細砂分を含有し、局所では塊状～厚さ5mm前後の帯状混入が見られる。 礫はφ5～10mm程の角礫(岩片)を主体に最大φ20mm程を点在する。 GL-4.0m以深、硬度上昇が伺える。		
3											
4											
5	315.21	1.55	5.90		風化岩(砂岩) (WR)	暗灰			風化・変質が岩芯にまで達しており、コアは礫混り粘土質砂状～礫混り砂質粘土状を主体に採取される。GL-4.75～5.0m間、風化・変質が弱まり、5cm程の棒状コアを採取する。風化・変質は「弱」の状態で岩片自体に脆さを感じる。岩盤等級区分は「D級」。		
6											
7					砂岩 (S)	暗灰			全体に貫岩粒子を混入する。網状亀裂の多発により、コアは礫状～砂状スライムで採取される。岩片自体は局所的に割れ目沿いの酸化痕や幾分かの軟質さを伴う部分が見られる程度で概ね新鮮な感じを受け、母岩強度の劣化は認められない。 岩盤等級区分は「CL級」。		
8	313.06	2.15	8.05								

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	2	2	5／30	5
1.45					
2.15	4	5	5	14／30	14
2.45					
3.15	5	6	4	15／30	15
3.45					
4.15	5	7	14	26／30	26
4.45					
5.00	16	20	6	50／26	>50
5.26					
6.00	50／7			50／7	>50
6.07					
7.00	50／9			50／9	>50
7.09					
8.00	50／5			50／5	>50
8.05					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験

掘進月日
09/03
09/06
09/07